

神奈川県

定数：15名

立候補者数：19名



氏名 鈴木 仁人

都道府県士会 神奈川県

年齢 48

勤務先名称 横浜市スポーツ医科学センター



氏名 相馬 光一

都道府県士会 神奈川県

年齢 56

勤務先名称 神奈川リハビリテーション病院

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

【協会・士会役員歴】

- 協会活動
- 2015～2016年 日本スポーツ理学療法学会総務部会 部員
- 2017～2018年 日本スポーツ理学療法学会第5回学術大会 広報・渉外部長
- 2018～2019年 日本スポーツ理学療法学会第6回学術大会 準備委員長
- 2017～2019年 日本理学療法士協会スポーツ支援推進執行委員会小委員会 委員
- 2017～2020年 日本スポーツ理学療法学会 運営幹事
- 2019～現在 日本理学療法士協会 代議員
- 2023～現在 日本理学療法士協会スポーツ理学療法業務推進部会 部会長
- 士会活動
- 2005～2018年 神奈川県理学療法士会社会局スポーツ支援部 部員
- 2016～2020年 神奈川県理学療法士会東京オリ・パラ準備委員会 委員長
- 2019～2020年 神奈川県理学療法士会 理事
- 2021～2022年 神奈川県理学療法士会 常任理事
- 2023～現在 神奈川県理学療法士会 副会長

【立候補の趣旨】

東京2020大会で世界のトップアスリートから高い評価を得た本会のスポーツ理学療法は、更にその役割を発展させ、広く国民に寄与することが求められている。そのような背景から、本会に2023年度に設置されたスポーツ理学療法業務推進部会が主担当となり、国のスポーツ行政での貢献が始まっている。Sport in Life コンソーシアムへの加盟や国の行政機関からの公募事業の受託がその重要な一歩となっている。受託事業では理学療法士の専門性とスポーツ領域での実績を活かすことで、多くの国民に寄与し、理学療法士のプレゼンスを高めることが期待されている。

本会と士会の連携も担い、我が国のスポーツ理学療法士の発展に寄与する所存である。

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

- 2016年～日本理学療法士協会代議員
 - 2006年～神奈川県理学療法士会公益事業推進部長
 - 2015年～神奈川県理学療法士会理事（事務局担当）
 - 2019年～神奈川県理学療法士会常任理事（事務局長）
 - 2021年～神奈川県理学療法士会理事（社会局担当）
 - 2023年～神奈川県理学療法士会常任理事（職能局長）
- 神奈川県理学療法士会の公益事業・広報・会員管理等の役割を担い、現在職能局長の任を拝命しております。診療報酬や介護報酬に関すること、一般の方への啓発事業や予防事業、産業分野での関わりや職域に関する事業等、県士会の業務を行う上で、協会との協調・情報共有が重要と考えており、協会の代議員となることで県士会の役割を十分果たすことができます。会員皆様のために精一杯頑張りますのでよろしくお願いいたします。



氏名 中田 周兵

都道府県士会 神奈川県

年齢 38

勤務先名称 横浜市スポーツ医科学センター



氏名 井田 徹

都道府県士会 神奈川県

年齢 46

勤務先名称 株式会社HRS

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

【協会・士会役員歴】

2020～22年 神奈川県理学療法士会 社会局 健康増進部 部長
2022～23年 神奈川県理学療法士会 スポーツ局 スポーツイベント支援部 部長
2023年～現在 神奈川県理学療法士会 理事（スポーツ局 副局長）

【立候補の趣旨】

神奈川県理学療法士会スポーツ局では、2021年度よりスポーツ理学療法人材育成事業（対面講義および実地研修）をスタートさせ、スポーツ理学療法領域において活躍できる人材の育成に力を入れている。その他、オンライン講習会の開催、スポーツ競技大会（パラスポーツ含む）や大規模スポーツイベントへの会員派遣など、多くの自己研鑽やスポーツ現場での活動機会を提供してきた。

職能団体である日本理学療法士協会は、人材の育成が将来的にも重要課題の一つである。会員の知識や技能の向上、専門職としての質の担保を目指し、2022年度より新たな生涯学習制度がスタートしたが、高い技能や専門性を求め自己研鑽を積む会員に対しては、より多くの機会を提供する責務がある。特にスポーツ理学療法領域は、その対象者（競技種目や競技レベルなど）や活動範囲が多岐にわたるため、幅広いニーズに対応した研修会や講習会の企画が求められる。

スポーツ理学療法は、健康寿命の延伸や現役世代の健康増進の観点から、運動指導の専門家としての期待も高まっている。その期待に応えるためにも、協会と士会の橋渡し役を担い、士会での経験を活かして、全国的なスポーツ理学療法の人材育成に寄与する所存である。

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

2023年6月～ 神奈川県理学療法士会理事

横浜市鶴見区で訪問看護ステーション、地域密着型通所介護事業所、自費リハビリ施設を運営しております株式会社HRS代表取締役の井田と申します。急性期・回復期・生活期を経て現在は最後まで住み慣れた自宅で楽しく健康に生活できることを支援できる在宅でのリハビリテーションに従事しております。病院勤務時代はなかなか出来なかった地域住民や行政とのかかわりを持つことも増え、地域包括ケアシステム構築の一助になっていると感じております。会社の代表となり自分のペースで仕事をできる立場となり、大好きな理学療法士という仕事を守りながら職域を広げるには、組織で動く必要性を感じております。昨年、離れていた県士会活動に参画したいと理事に就任させていただき、更に自身の意見や県士会員の言葉を日本理学療法士協会に届けたいと思い立候補させていただきました。宜しくお願いたします。



氏名 渡邊 裕之

都道府県士会 神奈川県

年齢 58

勤務先名称 北里大学医療衛生学部



氏名 河端 将司

都道府県士会 神奈川県

年齢 40

勤務先名称 北里大学医療衛生学部

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

士会／協会役員歴

2001～2008年：神奈川県理学療法士会スポーツサポートケア委員会委員長
 2008～2012年：神奈川県理学療法士会スポーツ支援・健康増員部 部長
 2015～2022年：神奈川県理学療法士会 理事
 2019～2022年：神奈川県理学療法士会 副会長
 2013～2021年：日本スポーツ理学療法学会運営幹事
 2019年：第6回日本スポーツ理学療法学会学術集会 大会長
 2021～現在：日本スポーツ理学療法学会 理事

趣旨

理学療法士を取り巻く環境は年々厳しさを増しているように思います。社会的な立場や物価高に対する給与所得の増加は他職種に比べて伸び悩み、決して恵まれた環境であるとは考えられません。多くの理学療法士が生活環境を改善させるために、本業であるリハビリテーションから離れています。このような状況が今後も続くようであれば、国家資格としての理学療法も危うくなるでしょう。本来であれば社会で担う役割は大きいはずなのに待遇の低さから離職を余儀なくされています。

昨今では理学療法士として社会活動に従事したり、個人の時間を利用して社会に貢献したりする方が増えています。多くの方がボランティアとして活動しているように思います。このような職業意識の高い方が多いのも理学療法士の特筆すべきところだと思います。おそらく理学療法士としての職業特性がこのような意識を生じさせているのだと思います。理学療法士の魅力の大きいところと考えています。

私は理学療法士としての資格の価値を、改めて高めていきたいと考えております。理学療法士の魅力は明らかなのに、社会からの評価を受けることができないために厳しい現実を余儀なくされています。このような環境を打破するために微力ながら会員活動を支援するとともに、代議員として協会との関係のなかで環境改善を思索していきたいと思っております。

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

●協会活動（*士会活動）

18年～21年 協会ガイドライン作成委員会システムティックレビュー班長
 21年～現在 日本スポーツ理学療法学会、ガイドライン委員会委員
 23年～現在 同学会、理学療法士の超音波画像診断装置使用に関する検討委員会委員
 *）13年 神奈川県理学療法士会、第31回学術大会 準備委員長
 *）20年～22年 同県士会スポーツ支援部部員（22年～現在 スポーツ局 局員）
 【立候補の趣旨】

“理学療法士が活躍し、社会的に評価される”この理想と現実のギャップに落胆せず、力強く次の一歩を進めたい。そんな次世代の理学療法士が増えることを切望する一人である。理学療法士の実力はこんなものじゃない、そんな気概に溢れた若き理学療法士らが未来を切り拓く。世代と職種を超えた協働で成果を最大化し、理学療法の実力と可能性を広く社会に発信する不断の努力が今まさに求められている。私は理学療法の実践者かつ研究・教育者として、士会と協会を通じて社会に貢献すべく立候補を決意した。

少子高齢化社会において、理学療法士が国民の福祉と健康に貢献できることは何か、人口の推移に反比例して増える理学療法士が社会的に活躍するための課題は山積である。子どもの健全な成長、健康寿命の延伸、競技・生涯スポーツの支援をはじめ、理学療法士が活躍できる可能性は広がる一方で、社会的な評価が伴わないギャップも痛感する。大学教育に携わり、次世代を担う学生の未来が明るいことを願ってやまない。

私はスポーツ傷害や運動器疾患の理学療法に従事してきた。昨今は超音波（エコー）が医師と理学療法士を繋ぐ効果を発揮している。使用上の障壁は残るが、エコーの活用は理学療法士にとって変革のチャンスである。先人の匠の技を可視化し、医師や患者（国民）から信頼を得る機会でもあると考える。医師らのエコー診療はめざましい発展を遂げている。理学療法士がこの流れに乗り遅れることは重大な問題であり、臨床と学術のアップデートが必要不可欠である。既存と刷新のバランスを重視し、多くの理学療法士の一步につながる活動に尽力したい。



氏名 下田 栄次

都道府県士会 神奈川県

年齢 45

勤務先名称 湘南医療大学



氏名 内田 賢一

都道府県士会 神奈川県

年齢 57

勤務先名称 神奈川県立保健福祉大学

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

【協会】
 平成27年6月～平成29年6月 将来構想戦略会議災害対策本部部員
 2018年度～2023年度（公社）日本理学療法士協会 代議員

【士会】
 平成26年4月～令和5年6月 神奈川県理学療法士会 公益事業推進部 部員
 平成30年4月～令和4年3月 神奈川県理学療法士会 ニュース編集部 部員
 第33回神奈川県理学療法士学会 学術係 係長
 第37回神奈川県理学療法士学会 総務係 係長
 平成25年11月～（公社）神奈川県理学療法士会 災害対策委員会 委員
 平成28年 6月～ 同委員会 委員長
 令和4年 6月～ 事務局 災害対策部 部長
 令和5年 6月～ 事務局 災害対策担当理事

《立候補の趣旨》
 神奈川県理学療法士会では、平時における災害対策、県内会員や県民への防災意識を高めることを目的とした普及および啓発活動を担う常設の委員会として災害対策委員会が設置されました。
 これまで、災害対策委員会の立ち上げから委員として携わりながら、令和3年3月には、県内初となる平塚市との災害時のリハ支援に関する協定を締結し、神奈川県DWA T（災害派遣福祉チーム）への参画を果たしました。
 令和4年6月には災害対策部に名称変更し、神奈川県内における災害支援体制として実効性のある地域防災システムと要配慮者支援ネットワークの構築に尽力しております。
 災害時におけるリハビリテーション支援活動を整備し、協会と士会、行政や地域との災害支援体制をより強固なものにすべく、代議員に立候補いたします。ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

【協会役員歴】
 2020年6月～ 代議員
 2022年1月～ 協会雑誌Up to Date 編集部部长

【士会役員歴】
 2012年6月～ 理事
 2021年6月～ 代表理事・会長

【立候補の趣旨】
 毎年1万人以上の新人理学療法士が誕生している本邦において、日本理学療法士協会の会員数は伸び悩み、脱会者が続出しているのが現状である。
 脱会を考えている若い会員からは、会員でいることのメリットを感じない、年会費が高いなど、様々な理由が聞こえてきている。
 理学療法士の需要と供給のバランスが崩れ、診療報酬の大幅な増額も見込めない現状においては、診療報酬に依存しない産業・予防理学療法領域へ業務を拡大していく必要がある。そのためには、より積極的に理学療法士の存在意義を国民に示していく必要があるが、協会にはその動きがあまりないのが現状である。
 協会は、新しい生涯学習制度において登録理学療法士を打ち出したが、そのメリットは会員へ十分に周知されているとは言い難い。
 これでは、会員が登録理学療法士制度のメリットを身をもって感じることは困難である。協会は、登録理学療法士制度を会員にだけでなく、国民にも知ってもらおう努力をしなければならぬ。それにより、国民から理学療法士を求める声が出てくれば、国は我々理学療法士の声を聞かざるを得ない状況になると考える。
 私は、その方法を協会へ提言していくために、代議員に立候補する。



氏名 淵橋 潤也

都道府県士会 神奈川県

年齢 44

勤務先名称 愛川北部病院



氏名 藤井 伸行

都道府県士会 神奈川県

年齢 40

勤務先名称 三浦市立病院

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

【協会・士会活動】

2013年～ 神奈川県県央ブロック役員・愛川町代表
2016年～2020年 管理者育成推進委員
2019年 第36回神奈川県理学療法士学会 副学会長兼準備委員長
2021年～ 神奈川県理学療法士会 理事

【立候補趣旨】

日本理学療法士協会 代議員に3期目として立候補いたしました淵橋と申します。また神奈川県士会では、学術大会部・臨床実習教育部の担当理事を拝命し、活動しております。2025年問題など、昨今の社会情勢の中で「理学療法士」という職業は、広く認知されてきており、多くの役割が期待されていると感じております。しかし、その一方で我々の職域に関して、基盤としている医療・介護分野だけでなく、「働き方」「職域・地位向上」、「質の向上」を図ることで、新たな分野にも挑戦できる可能性があると考えております。そのためには、協会や関連組織との連携や協働が必須であります。理学療法士としての職を、どのように社会で担うかを考えて、多種多様な働き方を作り上げていくためにも、県士会員の皆様のご意見を広くお聴きしながら、日本理学療法士協会と神奈川県理学療法士会との連携を強化し、会員の皆様へ還元できるよう、代議員の責務を全うする所存です。

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

【協会・士会活動歴】

2012年～ 新人教育部（前 生涯学習部）部員
2016年～ 横須賀・三浦ブロック 三浦市 市町村代表
2023年～ 事務局総務部・横須賀三浦ブロック担当理事

【趣旨】

この度、代議員に立候補させていただく藤井伸行と申します。現在、事務局総務部・横須賀三浦ブロック担当理事を務めさせていただいております。私は、臨床現場だけではなく地域・ブロック内や職場以外での他職種も含めた研鑽・交流の場があることの重要性や効果を日々感じています。代議員として協会と県内会員の皆様との橋渡しとなり、今後も会員の皆様が所属施設や地域内で理学療法士として求められる役割を発揮していけるよう、尽力していきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



氏名 西田 友紀子

都道府県士会 神奈川県

年齢 46

勤務先名称 川崎幸病院



氏名 藤本 義道

都道府県士会 神奈川県

年齢 53

勤務先名称 佐藤病院

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

協会・士会役員歴：2023年6月～ 神奈川県理学療法士会 理事

立候補の趣旨：

私は2007年から現在まで、急性期病院に勤めております。子育てをしながら急性期病院に勤めている経緯もあり、子育てと仕事の両立の困難さを感じ、少しでも働きやすい環境が整えられないかと常日頃から考えておりました。そして、2023年度より神奈川県理学療法士会理事として県士会活動に携わり、ライフサポート部や広報部の仕事の中で、皆様の有益となる事業を企画・開催したり、理学療法の情報発信をしたり、様々な活動を行ってきました。

まだまだ未知なことが多い状況ではありますが、神奈川県での活動のみならず協会の運営についても目を向け、連携を図りながら現場の意見を協会へ伝え続けることで、多くの理学療法士の方々の働きやすい環境を整える一助となれるように、尽力したいと思っております。よろしくお願いいたします。

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

病院所属の理学療法士として、地域の医療・介護・福祉分野で勤務しております。2021年より神奈川県士会理事として活動し、学術局生涯学習部担当理事として理学療法の技術・発展を目指してまいりました。微力ながら理学療法士の発展に貢献できれば幸いです。宜しくお願い致します。



氏名 根本 敬

都道府県士会 神奈川県

年齢 48

勤務先名称 湘南鎌倉総合病院



氏名 木村 充広

都道府県士会 神奈川県

年齢 52

勤務先名称 横須賀共済病院

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

- 2011年 第27回 神奈川県理学療法士学会 準備委員長
- 2016年 日本理学療法士協会 代議員（現職）
神奈川県理学療法士会 鎌倉ブロック 鎌倉市代表（現職）
- 2018年 認定理学療法士 疼痛管理 必須研修講師
- 2023年 第39回 神奈川県理学療法士学会 学会長

このたび本会代議員（神奈川県）に立候補しました、根本敬と申します。
立候補にかかる私感の冒頭におきまして、令和6年の能登半島震災において被災された方々へ心よりお見舞い申し上げます。また被災地の救援に尽力されている関係者の方々へ深く感謝申し上げます。
厳しく辛い情勢からの始まりとなった本年も、徐々に診療報酬・介護報酬改定の全貌が見えてきました。本体部分の引き上げの中には理学療法士の質上げにかかる項目もある反面、患者・利用者はサービスへの支払いが増え負担が増大します。我々は常に自分たちの境遇と患者・利用者の利益を比較考量し、現場都合だけでなく社会を多義的に俯瞰しなければなりません。「患者さん・利用者さんのために」と唱えられる文言には「自身のために」という意味も加えた、責任を伴う大局的な行動が求められます。制度を持続させるためには、効率的なサービスの提供体制を整えると同時に、負担に見合う質の高いサービスの実現を目指すこととなるでしょう。
「世のため人のため、ひいては自分のためになることやれば、必ず成就する。」そう残したのは“経営の神”と謳われた松下幸之助氏です。今後の医療・福祉・介護の行く末は心配や不安の声が多く挙がりますが、それらの要素は行動の不足から起こります。問題は能力の限界ではなく、思念の欠如であることに他なりません。
会員の皆さま一人ひとりが抱く様々な想いは、私の想いも含めて今後の社会の変化へ結び合わせることができるよう一意専心、連綿として努めてまいりたいと思います。

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

- 令和 4年4月～ 日本理学療法士協会代議員
- 平成 24年4月～ 神奈川県理学療法士会新人教育部部長
- 令和 3年6月～ 神奈川県理学療法士会 理事
- 令和 5年6月～ 神奈川県理学療法士会 常任理事 学術局長

2022年4月より新しい生涯学習制度が開始され、間もなく2年が経過いたします。内容の複雑さゆえ、現場レベルではまだまだ浸透しているとは言い難い状況であると認識しています。日々の研鑽が反映されやすく、わかりやすい制度に更新していく。それには持続的に皆様の生の声を直接届ける手段が必要です。この度は本会の代議員に立候補させていただき、引き続きこれらの課題に注力して参る所存です。



氏名 石田 輝樹

都道府県士会 神奈川県

年齢 41

勤務先名称 (株)リカバリータイムズ



氏名 露木 昭彰

都道府県士会 神奈川県

年齢 54

勤務先名称 (有)足柄リハビリテーションサービス

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

令和5年度 (社)神奈川県理学療法士協会 理事／
 ライフサポート部員を経て、今年度より理事となりました。
 本年度は職能局副局長として社会保険部、職能事業部を中心に活動しています。
 今回の立候補の趣旨は3つあります。

1つ目は日本理学療法士協会(以下、協会とする)へ現場での声を届けたいからです。
 これから地域の課題や問題が多様化する中で働き方の形態が増え、さまざまな方法で社会に貢献する仲間が現れます。その仲間の意見や考えそして自分自身の経験も踏まえて、議題を討議する際に適切な議決となる一助になりたいと考えています。

2つ目は協会の活動方針を理解し、後輩達に適切に伝えていくためです。
 何をしているのか?なぜそれに取り組むのか?どのように決めているのか?主体的に関わらなければ、わからない事がほとんどだからです。取り組んでいる内容からだけでは汲み取れない事が多くあると感じています。それは理事の仕事を通じて、少しずつ理解しています。そして自分自身の事業の運営経験を通じて、強く感じているからです。だからこそ自分事として捉えられるよう代議員として活動していきたいと考えました。

3つ目に協会全体として協会の方針をできる限り理解し、有事の際には一致団結した行動ができるように、代議員の立場から声を上げられるようにしたいと考えました。
 理学療法士の社会的評価が向上していくために、できる限り多くの仲間と動く必要があります。だからこそ、協会方針の意図を理解した上で納得感があつた上でしか活動協力はもらえないだろうとも思います。だからこそ普段からの協会理解のために総会での議題は討議され尽くした議決なのか?は重要だと感じています。

これからますます理学療法士は社会に求められる職種になるだろうと僕自身は強く感じています。だからこそ協会がどのような団体とつながっていくのか?どのような取り組みで社会にPR活動を続けていくのか?会費の適切な運用につながるように注視し、よりよい活動へとつながるような提案ができるよう尽力していきます。よろしくお願いします。

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

2006年～現在：神奈川県理学療法士理事(2021年～副会長)
 2006年～現在：日本理学療法士協会代議員

4月に控えた医療・介護・障害のトリプル改定で、理学療法士は評価されたとはいえない内容となっています。職能団体として国や他団体と正面を向いて交渉が出来る存在にならなければなりません。学術的な分野と共に現場での役割や活躍のフィールドを拡大し、国民に評価される理学療法士になることを目指していきたいと思います。

私は理学療法士の職域拡大、社会的評価の向上に力を注ぎ、これまで全国初の厚労省管轄である産業保健総合支援センターと本会との連携協定締結も繋げました。現在、新たに女性の働く場を切り開くため、美容業界との連携も進めています。他にも空き家対策、観光業界、災害対策、地域創生などにも関わり理学療法士が病気や障害にだけ対応する職種ではないことを社会に理解してもらうために日々汗を流しています。

代議員になることは神奈川県代表として、日本理学療法士協会へ直接意見を届けることが出来る立場であります。これまでの実績をもとに再度、頑張っていきますのでどうぞよろしく願いいたします。



氏名 玉置 龍也

都道府県士会 神奈川県

年齢 45

勤務先名称 横浜市スポーツ医科学センター



氏名 松本 肇

都道府県士会 神奈川県

年齢 48

勤務先名称 鶴巻温泉病院

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

【協会・士会役員歴】

2014～2020 神奈川県理学療法士会社会局スポーツ支援部 部長

2020～2021 神奈川県理学療法士会社会局スポーツ支援部 副部長

2021～現在 神奈川県理学療法士会スポーツ局 局長

2021～現在 日本スポーツ理学療法学会 評議員

2021～現在 日本スポーツ理学療法学会広報委員会 委員長

2023～現在 日本理学療法士協会 パラスポーツ理学療法業務推進部会

2023～現在 第11回日本スポーツ理学療法学会学術大会 準備委員長

2023～現在 日本理学療法士協会「スポーツ庁委託事業」検討委員会委員

【候補趣旨】

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会において、多くの本会会員が大会の理学療法士としてアスリートサポートにおける重要な役割を担った。世界水準の多様かつ高度専門的なアスリートのコンディショニングの要求へ対応し、医師や他のコメディカルとの切れ目のない連携によるサービスを提供した。大会のレガシーとして、理学療法士には専門性を活かしたスポーツ分野での幅広い取り組みが期待されている。特に2022年に制定された第3期スポーツ基本計画に示される「誰もがアクセスできる」スポーツや運動という視点においては、スポーツや運動をしたいと願う方の安全・安心の確保のための方策を提供し、医療と活動的な日常の接点を担える理学療法士の専門性は重要である。

このような現状を踏まえて、神奈川県理学療法士会においては、スポーツ局に所属し、スポーツ関連事業の充実とスポーツ理学療法人材の育成及び活動の機会創出のために活動を行なっている。また本会ではのパラスポーツ理学療法業務推進部会では、障害の有無によらずスポーツの機会を得られるパラスポーツの推進に関わる事業に携わっている。本会においては、日本におけるスポーツ理学療法への更なる発展に貢献し、スポーツ分野での活動を契機とした理学療法士のプレゼンス向上に尽力する。

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

神奈川県理学療法士会の役員歴

・2010～2020 中途障害支援部 部長

・2019～ 理事

(2021～2022 事務局長)

(2023～ 副会長)

立候補の趣旨

日本理学療法士協会（協会）と神奈川県理学療法士会（士会）の共通の利益は、“会員の保全”であると考えます。“会員の保全”を遂行する為に、協会と士会が同じ方向を向いて、事業を遂行する事が必要と考え、立候補しました。代議員に選出頂いた際は、協会の事業が会員の皆様にどの様に益するのか、しっかりと考え、本会の事業に活かしていきたいと考えています。

以上よろしく願いいたします。



氏名 佐久川 拓郎

都道府県士会 神奈川県

年齢 35

勤務先名称 Manami Medical

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

【協会・士会役員歴】

2018年6月～ 神奈川県理学療法士会 ウェブサイト管理部

2022年7月～ 同上 主任

2023年6月～ 神奈川県理学療法士会 理事

【立候補の趣旨】

この度代議員選挙に立候補させて頂きました佐久川と申します。

今回、私が立候補させて頂いた理由は以下となります。

まず、会員の皆様からお聞かせ頂いている様々な声を協会に届けたいと思ったからです。私は昨年より神奈川県理学療法士会の理事を務めさせて頂いております。その中で、県士会活動に携わっている方や県士会や協会に対していろいろな意見を持っている方、色々な方と交流させて頂く機会が増えました。前向きなご意見や不平や不満、様々なお話を聞かせて頂いております。そういった「生の声」を直接協会へ届けると共にそういったお話をお聞かせ頂いている中で、私の中で生まれた思い、そういったものも協会へ届けられればと思っています。

また、協会と県士会の活動がより国民・県民の方々や会員の皆様の為になるような具体案を提言していきたいと考えております。理学療法士という専門性を活かすと共に会員の皆様が誇りに持てるような組織にしていきたいと考えております。そして、若手の方々の目線に立ち何を求められているのか読み解いていき実現に結び付けられればと考えております。

以上になりますが何卒宜しくお願い致します。